

# 茨城大学学報

第269号

平成18年10月～平成18年11月



晩秋のキャンパス

## INDEX

- ◆農学部附属農場がF Sセンターに改組
- ◆大学院理工学研究科博士後期課程入学式
- ◆高等学校 PTA の大学訪問
- ◆アメリカ合衆国ウィスコンシン州立大学スペリオル校と学術交流協定及び学生交流協定を締結
- ◆「図書館見学・体験ツアー」を開催
- ◆講演会「論文作成の作法」を開催
- ◆日立市との連携協力協定を締結
- ◆学生寮で消防訓練を実施
- ◆中学生が職場体験で来学
- ◆第4回 Word Material Day Award の第3部門を受賞
- ◆第57回茨苑祭を開催（テーマ：響くひびき）
- ◆永年勤続者表彰を開催
- ◆第1回 IR3S/ICAS 国際シンポジウムを開催
- ◆「NHK県域デジタルTV放送」茨大タスクフォースだより

10月号 臨時増刊 Vol.1～Vol.5

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

## ◇ 農学部附属農場がF Sセンターに改組

本学では農学部附属農場を改組し、10月1日から名称を農学部附属フィールドサイエンス教育研究センター（略称F Sセンター）として、新たな活動を開始しました。

これに伴い10月2日に菊池龍三郎学長をはじめ事務局及び農学部関係者によるオープンセレモニーを行いました。今後はF Sセンターとして旧農場の体制をさらに発展させ、学内外を問わず、広く教育・研究及び地域に貢献できる施設として利用されるよう、より一層の改革を進める方針であります。



看板を上掲する松田農学部長，菊池学長，中島センター長，小原総務部長

## 平成 18 年度茨城大学大学院理工学研究科博士後期課程入学式

平成 18 年度茨城大学大学院理工学研究科博士後期課程入学式(10 月期)を 10 月 6 日(金)事務局会議室において行いました。本学では、理工学研究科博士後期課程の 10 月期入学生について初めて 3 名の学生を受け入れることができ、10 月期として初めての入学式となりました。

入学式では、菊池学長の式辞、坂田理工学研究科副研究科長からの挨拶があり、入学生を代表して理工学研究科博士後期課程生産科学専攻の小山田賢治さんから「大学院生として自覚し、社会の安定と発展に貢献し、グローバルに活躍する人間となるよう学問の探究に努めたい。」と誓いの言葉を述べられ、式を閉じました。



入学生を代表して宣誓する小山田さん

## 高等学校 PTA の大学訪問

本学では、10月10日(火)に栃木県立栃木南・栃木翔南高等学校のPTA41名の、また、10月20日(金)には千葉県立匝瑳高等学校PTA43名の訪問を受けました。両校共に本学の教育施設を見学し、入試状況や学生の生活の様子を研修体験し、生徒の進路決定の参考としたいとの目的で来学されました。

栃木南・栃木翔南高等学校のPTAの皆さんは、水戸キャンパス内の建物・CALL教室・各種施設のほか、学生が利用する自動証明書発行装置などを見学した後に、理学部インタビュースタジオで小澤総務課長から大学の概要について、続いて、杉田入学課長補佐から入試状況についての説明を受け、質疑応答では推薦入学制度等の質問が寄せられました。



インタビュースタジオでの説明会

匝瑳高等学校のPTAの皆さんは、キャンパスを見学し大学概要の説明を受けた後、ご希望により生協食堂での学食を体験され、メニューの豊富さや値段の安さに驚かれていました。

午後は、本学に在籍している同校の卒業生7名との懇談会を行いました。受験体験談、志望動機、本学に対する印象や希望、家賃や生活費等、本学受験の先輩からのアドバイス、工(日立市)・農(阿見町)学部生特有のキャンパス移動に伴う負担などについて、学生からナマの情報を得ていられました。



卒業生懇談会での人文学部2年遠藤さん

## アメリカ合衆国ウィスコンシン州立大学スペリオル校と 学術交流協定及び学生交流協定を締結

本学では、国際交流推進の一環として、アメリカ合衆国のウィスコンシン州立大学スペリオル校と学術交流協定及び学生交流協定を締結しました。

今回の協定締結は、農学部のある阿見町とスペリオル校のあるスペリオル市が共に湖に面している（阿見町は霞ヶ浦、スペリオル市は五大湖のスペリオル湖）という共通した地域環境を持つ縁から交流が始まり、1997年に姉妹都市となったことに端を発します。阿見町での締結式にスペリオル校学長が来日し、農学部を訪問したことから、交流が始まり、2001年5月に農学部とスペリオル校との学部間学術交流が締結されました。その後、研究者・大学スタッフの交流、スペリオル校での語学研修などが行われ、2004年11月には、農学部、スペリオル校、阿見町、スペリオル市の2大学・2市町共催の国際シンポジウム「湖沼環境・市民生活の調和と協調」を開催するなど活発な交流が行われてきました。

スペリオル校は、ウィスコンシン州スペリオル市にあり、1926年に教師養成学校として創設され、その後、1971年に州立大学となった。同校は、ウィスコンシン州立大学の12あるクラスタシステムに属しており、生物学、化学、経済学、教育学、芸術、ビジネス、コンピュータ科学など14学部で構成され、30余の専攻を持ち、学生総数2,800名、教員数

170名と、少人数クラスによるハイレベルの教育を特徴としている。また、教育学、人文科学、コミュニケーション科学、映像芸術などの専攻に修士課程を併設しており、林学、工学においては、マジソン校への連携学士コースや2年制の準学士コースもあります。さらに、社会人教育にも力を入れており、テレビ会議を利用したキャンパス間の交換授業を展開し、多様な学習内容を提供しています。



このように本学とスペリオル校は、教育研究分野において共通点が多く、また、湖沼研究所などがあることから、このたび、学部間学術交流から大学間学術交流協定の締結へと発展しました。

調印式は、10月12日に茨城大学で行われ、ウィスコンシン州立大学スペリオル校からアーレンバツハ学長、マークウッド副学長（学術担当）、本学から菊池学長、山形副学長（学術担当）、村中副学長（教育担当）をは

じめ、関係者が同席し、協定書調印、両大学の概要説明及び意見交換等が行われました。

今回の協定締結により、教職員、研究者及び学生の交流、教育及び研究に関する情報交換など両大学間のより一層の学術交流及び学生交流の発展が期待されています。

## 「図書館見学・体験ツアー」を開催

本学では、茨城県稲敷郡阿見町と地域連携協力事業のひとつとして、町及び大学の図書館を住民、学生の交流の場とし、資料の利用を通して地域の文化・学術面で共に協力、発展していくことを目指しており、去る10月19日（木）に農学部分館において「図書館見学・体験ツアー」を開催しました。

阿見町からは10名の住民参加があり、農学部分館を見学後、2班に分かれてカウンター業務の体験をしました。図書の貸出、返却処理を行い、スキャナでバーコードを読み込み、返却日の押印、磁気信号消去などの作業を体験しました。返却図書の書架への返本は4班に分かれ、図書のラベル順に配架し、「番号順に並んでいないと図書が探せませんね。」「きちんと並べておくのは大変ですね。」など図書業務の苦勞が垣間見られた体験となりました。

午後は、学生が阿見町立図書館を見学し、町立図書館の新規利用登録を行い、図書を借り受ける等の業務体験を行いました。

町・大学相互の施設や業務を理解することにより、今後、交流の場としての図書館活用の期待が膨らむものとなりました。



図書館業務体験

## ◇ 講演会「論文作成の作法」を開催

図書館農学部分館では、浅見輝男名誉教授を招き、10月23日（月）阿見キャンパスこぶし会館で講演会「論文作成の作法」を開催しました。

講演会の資料は、浅見先生の論文「論文作成の作法」（日本土壤肥料学雑誌 69 巻 6 号, p654～656, 1998）と分館所蔵の論文の書き方に関するリストを配布し、レポート、卒業論文の書き方、実験結果のまとめ方など学生にとって身近な論文の書き方をテーマとしたため学生の関心が強く、会場は満席となる盛況でした。

講演は、「論文作成の作法」の内容に沿って行われ、「論文は、(1)図表の完成 (2)試料と方法を書く (3)結果を書く (4)議論を書く (5)要約を書く (6)序文を書く という手順で書くとよい。」「自分の実験結果や業績は何処かの雑誌にのせるのだとの覇気を以って対応すべきである。」など、具体的なレポートの書き方、まとめ方、また論文作成への気構えなどが教授されました。

学生からは「卒業論文作成の参考になった。」「論文を書くことに自信がもてそうだ。」などの感想が寄せられ、好評を得ることが出来ました。



講演中の浅見輝男名誉教授

## ◇ 日立市との連携協力協定を締結

本学では、10月31日（火）11時から日立市役所において協定締結式が開催され、榎村市長と菊池学長が連携協力協定書に調印しました。一昨年4月の法人化後、本学では、進むべき方向を明確に「地域に支えられ、地域から頼りにされる大学」と位置付け、様々な地域のニーズ等に対応した教育研究活動を進めてきましたが、今回、対自治体としては4件目（水戸市、鹿嶋市、阿見町）となる協定締結に至りました。

これまでも日立市との間では、工学部や共同研究開発センターを中心として共同研究や受託研究、技術相談、ひたちものづくりサロン研究グループにおける活動など様々な連携協力が進められてきました。今回の協定により、

- (1) ものづくりによる地域の活性化
- (2) 地域の政策課題に係る共同研究の推進
- (3) 人材の相互活用、人的交流の促進
- (4) 地域の発展に寄与する人材育成 等が、一層活発化することが期待されております。

榎村市長からは、「国際化の進展や地域経済の変化、少子高齢化社会の進行などにより新たな課題に直面しており、市と大学が交流を密に切磋琢磨して知と創造の拠点を築いていきたい。」と力強い抱負が述べられました。また、菊池学長からは、「多賀工業専門学校（工学部の前身）時代から日立市には、大変な御支援をいただいております。この協定締結を機に、今後、工学部のみならず全学の知的資源を日立市の文化、産業、教育、福祉等の一層の振興に役立てていただければと考えています。」と挨拶がなされました。

なお、調印式後、記者団からは、これまで日立市と大学間で行われてきた共同研究や協力活動、今後進めていく予定の協同事業などについての質問がなされ、市民向け講座を充実し、CATVで配信したいなどの計画案が話されました。



協定書に署名する菊池学長と榎村市長

## ◇ 学生寮で消防訓練を実施

本学では、11月1日（水）午後に水戸地区学生寮（水哉寮・みずき寮）で約80名の寮生が参加し、消防訓練を実施しました。寮生全員が自衛消防組織の編成に所属し、訓練は毎年秋に1回行っています。

今回の訓練では、男子寮4階給湯室からの火災発生と目視による発見を想定し、「火事だ！」と叫んでの通報から、避難・救護までの総合訓練と、水戸消防本部職員の指導を受けながら消火器、5階居室設置の避難器具及び屋内消火栓を実際に使用して各々の訓練を実施しました。

参加した寮生は、人命の安全や怪我人など最小限にとどめることなどを念頭におきながら真剣に訓練に取り組んでいました。



放水訓練を行う寮生

## 水戸市立常澄中学生が職場体験で来学

11月1日(水)水戸市立常澄中学校2年の星野さんが、「研究者とはどのような職業なのか」を見学したいとの申し出を受け、理学部折山剛教授の研究室を訪問されました。

始めに折山教授の案内で、研究室のある理学部 K 棟の施設や図書室、情報スペース等を見学し、研究室の紹介や薬品の管理のしかたについて説明を受けました。

次に、大学の教員の仕事について、中学校は1講時が50分の授業であるが、大学は90分の講義を行っていることや、時には夜中まで及ぶ研究も有ること、学会や他機関へ出張もあること等、いっぱい書き込まれた先生のスケジュール表で説明を受けました。



教育に関する体験として、本学の学生が英文で書かれた論文を講読し説明する、化学に関する授業を見学しました。化学実験の体験では、星野さんは院生の指導を受け、有機化合物の実験を行いました。薬品を混ぜ合わせ、溶剤で溶かし、分離といった行程を繰り返し、純度を高め

生成した物質をNMR測定装置やIR測定装置を使い、成分分析を行うまでの本格的なものでした。

折山教授から、分子モデルの構造、鏡像異性体について優しく説明を受けました。現在は、DDR(ドラッグ・デリバリー・システム)や不斉合成の研究をすすめていて、人に優しい化学、地球に優しい化学を目指していると研究テーマが語られました。



星野さんからは、「やり甲斐は何ですか、喜びは何ですか」との質問をうけ、折山教授は、「教育や研究をとおして人と接することからコミュニケーションが生まれ、時間と空間の共有が出来ることが喜びであり、高い目標をもち、うまくいかないことが多いけれど、チームワークで良い仕事が出来た時などにやり甲斐を感じる。」と答えられました。

星野さんは研究室訪問の後、折山教授や研究室の院生の皆さんと学食を共にしてキャンパス体験を終えられました。

## ◇ 第4回 Word Material Day Award の第3部門を受賞

本学工学部の鑄造クラブ（学生・大学院生 12人）が、11月1日（社）日本金属学会より第4回 Word Material Day Award の第3部門を受賞しました。

本賞は、「材料に関する知識とその重要性を社会や若者に啓発する活動」に貢献した学生に与えられるもので、鑄造クラブは、夏休みなどに小中学生や高校生を対象としたものづくり教室を開き、青少年に金属材料への興味、重要性を喚起したとして、今回の受賞となりました。

表彰式は、工学部会議室で行われ、金属学会から贈られた表彰状を白石工学部長よりクラブ代表者に手渡された。クラブ代表者からは、「活動が認められ、うれしい。今後も、金属の楽しさを伝える活動を続けたい。」と受賞の喜びが述べられました。



白石工学部長を囲む鑄造クラブ員

## ◇ 第57回茨苑祭を開催（テーマ：響くひびき）

去る11月18日（土）、19日（日）、本学水戸キャンパスを会場として第57回茨苑祭が開催されました。お笑いタレント3組を招いたお笑いLIVE2006をはじめ、茨城県・日本赤十字社・茨苑祭実行委員会共同企画の献血キャンペーン、鹿嶋市・常陸大宮市による物産展、近隣の学校児童・生徒や本学学生の作品を展示した作品展、チャリティーフリーマーケット、模擬店、バンド演奏、研究発表や科学教室・体操教室等、様々な企画が行われました。開催2日目は天候が崩れた関係で一般公開を1時間早めて終了するなどのハプニングもありましたが、フィナーレを飾る花火と歓声に包まれてた中、無事終了することが出来ました。



## 永年勤続者表彰

平成18年度本学永年勤続者表彰式が、去る11月22日(水)事務局会議室において、学長出席のもとに執り行われました。

また、表彰式終了後懇談会が開催され、受表彰者からの思い出話や今後の抱負等が披露され、和やかなうちにお開きになりました。

なお、被表彰者は次の方々です。

### 学長表彰

学務部長	柴崎 正夫
学生生活課 厚生企画係長	武田 和志
入学課 入学試験第二係長	木野内 正芳
人文学部学務第二係 学生主任	柳田 登美雄
教育学部総務係 人事主任	菊池 毅
教育学部附属小学校 教諭	寺田 明彦
教育学部附属小学校 教諭	久地岡 啓一郎
教育学部附属中学校 教頭	田邊 一男
教育学部附属幼稚園 教頭	福田 洋子
工学部技術部 技術専門職員	小松 護



平成18年度 茨城大学永年勤続者表彰記念 平成18年11月22日

## 第1回 IR3S/ICAS 国際シンポジウム

### 「地球環境の将来 温暖化の予測と対応策の課題」

サステナビリティ学連携研究機構（IR3S）、茨城大学、国連大学、国立環境研究所の主催による第1回 IR3S/ICAS 国際シンポジウムが11月27、28日の両日にわたり本学理学部インタビュースタジオを会場として、2012年以降の温暖化対策について意見交換する場として、幅広い分野の研究者を集め、温暖化の予測と影響、今後の温暖化対策のあり方、さらには脱温暖化社会の展望について検討することを目的として開催しました。

シンポジウムでは、日本及び英国の最先端の研究グループによる最新の気候モデルの結果が紹介され、特に地球シミュレーターを用いた詳細な予測結果は、明瞭に今後の温暖化の進行を示し、今後の経済発展の経路によっては、5 以上の平均気温の上昇が予測されるといった発表があり、予測の中にある不確実性をどのように扱うかが議論になりました。また、インドネシアの農業やベトナムの海岸侵食の現状が報告され、温室効果ガスの排出抑制のために経済との関係、途上国と先進国との立場の違い、排出削減だけでなく温暖化の悪影響への適応策などについて提案と議論があり、温暖化問題への対応は、持続可能な開発を目指す政策の一環であるという指摘が共感を呼ぶことが出来ました。



シンポジウムには延べ220名の参加をうけ、学生や市民の参加者から、こうした科学的研究成果をいかに社会に伝えるか、また、科学の結果をいかに具体的な行動にどうつなげるかといった問題提起がありました。これに対して、教育や広報活動の重要性、また、家庭における妻であり母親である女性の理解がカギを握るといった指摘がなされました。

気候モデルの開発、影響予測、国際的気候政策に携わる専門家が分野を越えて成果を交換したことは、ほとんど初めてのことであり、相互協力の必要性を多くの研究者が認識でき、このようなネットワークが形成されたことは、今後の研究にとって大きな意味を持つものとなりました。今後、東京大学、ハワイ、ベトナムでのシンポジウムなど多くの機会が予定されていることを確認して、成功裏に閉幕することが出来ました。

- 「NHK 県域デジタルTV放送」

茨大タスクフォースだより 10月号 -

毎週木曜の18時35分から、NHK水戸放送局公開スタジオ「飛び出せ！キャンパス」のコーナーでは、本学や筑波大、東京芸術大取手キャンパスの学生が提供した映像作品が紹介され、併せて、企画・撮影にあたった学生たちが司会者とトークを行っています。

平成18年10月26日(木)・・・茨城発見！ 第二弾 茨城大学図書館古文書

(人文学部コミュニケーション学科3年次 西澤 育絵さん、大塚 聡美さん)

茨城大学図書館には、地域の人々から寄贈された貴重な古文書が山のようにある。人文学部の歴史担当教員と学生たちは、20年以上、こつこつとその古文書の整理作業にあたり、分類し、そこから伺える過去の茨城の姿を描いてきた。その結果は現在16冊の目録や史料集に結実しているが、今後もその作業は続けられる。

大学院生や学生たちの地道な復元作業を描き、その意義を訴えると同時に、茨城大学図書館にある古文書から見えてくる過去の茨城の姿を紹介しました。



写真は

人文学部人文コミュニケーション学科  
佐野研究室 &  
磯田研究室の皆さんと  
大木アナウンサー

NHK水戸放送局公開スタジオにて：

左上段：千野さん、小室さん、大木アナウンサー、小松崎さん、森井くん、山口くん、  
岩崎さん、羽持さん

下段：西澤さん、菊川さん、有賀さん、大塚さん、武山さん、椎名くん

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。

## - 「NHK 県域デジタルTV放送」

茨大タスクフォースだより 10月臨時増刊号 Vol.1 -

平成18年10月30日(月)～11月6日(月)の18時45分頃から、NHK水戸放送局公開スタジオで、“いばらきわいわいスタジオ”の「熱風スタジアム」のコーナーに、本学の特色ある学生サークルなどが出演しました。

平成18年10月30日(月)・・・農学部 鋤耕祭実行委員会

「11月3日(金)、4日(土)に開催する鋤耕祭の紹介」

農学部では、今年度の鋤耕祭を「農から創(はじ)まる地域の環(わ)」と題して、例年以上に地域の方々との連携を深めた学園祭を展開します。

スタジオでは、当日販売する野菜のうちのほんの一部をお見せしながら、地元農家の方々の協力の下成り立っている野菜販売の紹介や、農学部附属農場で行われるいもほり体験の紹介を行いました。

また、模擬店では、今年は学生出店のお店だけでなく地域住民の方の出店もあること、農学部独自の活動のうら谷津農園で栽培・収穫した羽二重というもち米を用いてお餅をついて販売すること、ステージ上では、農学部になんだ問題が出題される一般参加型のクイズ(2日目のみ)や、抽選会(両日とも)を行うことについても紹介しました。



NHK水戸放送局公開スタジオにて  
右端:大木アナと

鋤耕祭実行委員会の皆さん

左から:笠巻さん、岡本くん、櫻井くん、田中さん、大木アナ

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。

## - 「NHK 県域デジタルTV放送」

茨大タスクフォースだより 10月臨時増刊号 Vol.2 -

平成18年10月30日(月)～11月6日(月)の18時45分頃から、NHK水戸放送局公開スタジオで、“いばらきわいわいスタジオ”の「熱風スタジアム」のコーナーに、本学の特色ある学生サークルなどが出演しました。

平成18年10月31日(火)・・・アートサークル「SCRATCH」の活動紹介

「SCRATCH」は、その名のとおりに「寄せ集め」なアートサークルです。各個人がこれはアートだと思ったことを追求しています。

スタジオでは、主な活動として、メンバーの作品を集めて年3回展覧会を行っていて、次回は11月18日(土)、19日(日)に開催する茨苑祭で「SCRATCH展」を行うことを、パネルの写真を用いて紹介しました。

また、メンバーが制作したTシャツやトートバック、缶バッジをお見せしながら、茨苑祭にいらしていただくようPRしました。



NHK水戸放送局公開スタジオにて  
左端：大木アナと

SCRATCHの皆さん

左から：大木アナ、木村さん、小野くん、仁平くん、長谷川くん、相澤くん

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。

## - 「NHK 県域デジタルTV放送」

茨大タスクフォースだより 10月臨時増刊号 Vol.3 -

平成18年10月30日(月)～11月6日(月)の18時45分頃から、NHK水戸放送局公開スタジオで、“いばらきわいわいスタジオ”の「熱風スタジアム」のコーナーに、本学の特色ある学生サークルなどが出演しました。

平成18年11月1日(水)・・・中日会「餃子で国際交流」の活動紹介

中日会は、食文化(中日)の紹介をはじめ、スポーツやイベントなどの活動を通して、中日民間の交流が深まること、広がることを目的に活動しています。

スタジオでは、茨城大学社会連携事業会の学生地域参画プロジェクトに採択されて資金援助をいただき、これまで2回水戸市国際交流センターで手作り餃子講習会を開催したこと、来年の1月14日に「1万個餃子パーティー」を開くことなどについて紹介しました。

その他実際に、焼き餃子と水餃子を作り、大木アナに味見をしていただきました。スタジオの観覧者の皆様にも試食していただきました。

また、茨苑祭で販売する「すぶた丼」と「魚香肉糸(イ-シャンロ-ス)丼」をお見せしてPRしました。



NHK水戸放送局公開スタジオにて  
中央:大木アナと

中日会のお二人

左から:原田くん、大木アナ、王くん

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。

## - 「NHK 県域デジタルTV放送」

茨大タスクフォースだより 10月臨時増刊号 Vol.4 -

平成18年10月30日(月)～11月6日(月)の18時45分頃から、NHK水戸放送局公開スタジオで、“いばらきわいわいスタジオ”の「熱風スタジアム」のコーナーに、本学の特色ある学生サークルなどが出演しました。

平成18年11月2日(木)・・・西塩子の回り舞台組み立てボランティアの活動紹介

(人文学部人文学科歴史学専攻 日本古代・中世史ゼミ)

西塩子の回り舞台組み立てボランティアは、常陸大宮市西塩子地区に伝わる日本最古の回り舞台で上演される村歌舞伎(茨城県の重要有形民族文化財に指定)の公演を支援するボランティアです。

スタジオでは、回り舞台の組み立てと公演の支援を、地元大学で歴史を学ぶ学生が全国的にも貴重な民族文化財の伝承にボランティアとして参加したこと、その模様を写真パネルを用いて紹介しました。

こうした作業に携わり、民族文化財の伝承に貢献することを通じて、「文化財とは何か、それを後世に伝えるとはどういうことか」を改めて学ぶことが出来た旨お話ししました。



NHK水戸放送局公開スタジオにて  
右端:大木アナと

西塩子の回り舞台

組み立てボランティアの皆さん

左から:高木くん、千野さん、菊川さん、有賀さん、柴田さん、大木アナ

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。

## - 「NHK 県域デジタルTV放送」

茨大タスクフォースだより 10月臨時増刊号 Vol.5 -

平成18年10月30日(月)～11月6日(月)の18時45分頃から、NHK水戸放送局公開スタジオで、“いばらきわいわいスタジオ”の「熱風スタジアム」のコーナーに、本学の特色ある学生サークルなどが出演しました。

平成18年11月6日(月)・・・演劇集団「風ノ街」の活動紹介

演劇集団「風ノ街」は、学生の演劇サークルで、オリジナル作品をメインに活動しています。

毎年6月、11月、3月の3回、本公演を行っています。

スタジオでは、11月11日(土)に開催する第60回公演「High Fly Theater 8」を行うことを、3人の出演者が演技をしながら、宣伝用映像とポスターパネルを用いて紹介しました。



NHK水戸放送局公開スタジオにて

左端：大木アナと

演劇集団「風ノ街」の皆さん

左から：大木アナ、又吉くん、泉田くん、中山くん

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。